

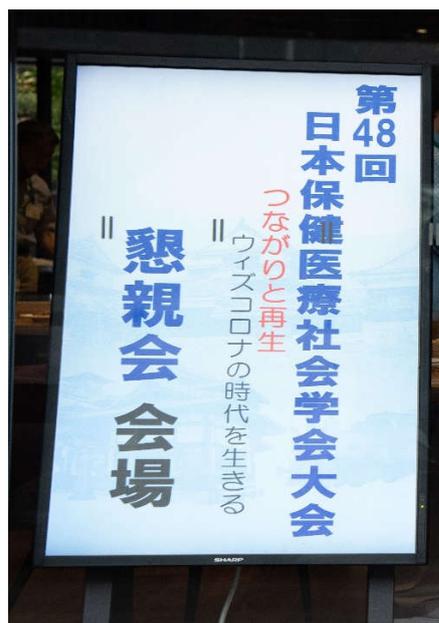
日本保健医療社会学会ニューズレター (No.121) 2022/07/29

目次

1. 第48回大会報告
2. 第49回大会告知
3. 総会報告
4. 園田賞報告
5. 理事会報告
6. 定例研究会（関東）報告
7. 定例研究会（関西）報告
8. 看護・ケア研究部会報告
9. 渉外・国際交流活動
10. 会員の動向
11. 編集後記

1. 第48回大会報告

「つながりと再生——ウィズコロナの現実を生きる」を大会テーマとした第48回大会は、ハイブリッド開催とはいえ、3年ぶりの対面の大会となりました。また、感染防止対策を徹底した上で、対面での懇親会も実施したため、これも対面では3年ぶりの開催となりました。久しぶりに、懐かしい会員のみなさまの元気な顔と対面した感慨はひとしおでした。写真は懇親会で挨拶される小澤温会長です。



対面とオンラインの併用によるハイブリッド（ハイフレックス）開催は、この学会では初めてのことであり、主催する側としても、同時配信のリハーサルを2回行ったものの、必ず何らかのトラブルが起きることを覚悟していました。ところが、幸いなことに大きな問題もなく、無事に終わることができました。これもひとえに、みなさまのご協力のおかげと感謝しております。会期中の参加者は過去最大の261名を数え、その内訳は、一般会員179名、学生会員28名、一般非会員39名、学生非会員13名、名誉会員1名で、そのうち85名が現地参加でした。その結果、大会収支も黒字となり、学会に対して運営補助金の20万円を返却し、さらに差額の56,102円を学会に寄付することになります。

対面開催にこぎ着けることができたのは、学会開催時の施設管理を担当する松山大学の委員会と学長から、昨年早くに許可が下りたことが大前提としてあります。また、前年度大会長の中村英代先生からのスムーズな引き継ぎに加え、天田城介先生を委員長とする研究活動委員会に最初から最後まで、ご支援をいただいたこと、そして、ハイブリッド開催の技術的な面では、地元松山のIT企業にホームページ管理と同時配信作業について全面的に頼ることができたことが大きいと思われます。それによって、ハイブリッド開催という初めての試みが成功しただけでなく、地元企業を活用することで大会運営費の削減にも貢献することができました。

ハイブリッド開催にすると、対面とオンラインの両方の態勢を整える必要がある点で、どちらか一方の開催よりも、かなり手間がかかることは事実です。しかし、オンライン参加者が多くなるほど、対面参加者の数が限られてくるため、現地会場の運営に割くスタッフの人数も少なくてすむというメリットがあります。実際、昨年11月に研究活動委員会に現地参加かオンラインかのアンケート調査を全会員対象に実施していただき、約70名程度の現地参加希望者がいることが明らかになりました。私たちはこれにもとづいて、通常の対面開催よりかなり少ない使用教室数と運営スタッフ数を想定することができました。また、2022年3月12日には、開催校企画「新型コロナウイルスと日常生活」の研究例会（関西地区）を実施して、会員のみなさんに大会参加へのモチベーションを高める機会を持ちました。

大会の目玉として、今大会のテーマに沿って、地元愛媛県において精神科単科病院の病床数をゼロにし、地域移行を成し遂げた公益財団法人正光会御荘診療所の長野敏宏所長に教育講演「ウィズコロナの時代に地域で生きる」を依頼しました。私たちは、地域移行までの長年にわたる努力の過程について多くの示唆を受けただけでなく、新型コロナウイルスのパンデミック下での医療・福祉関係者間の情報共有の重要性について、あらためて学ぶことができました。また、大会記念講演として、日本赤十字看護大学名誉教授の武井麻子先生に「パンデミックの中の感情労働」をお願いしました。有名な「感情労働」論をベースに、コロナ禍における医療従事者の理不尽な感情マネジメントの現実が明らかにされ、その解決を個人ではなく組織に求めるべきだというメッセージを私たちは真摯に受け止めました。

大会記念シンポジウムとして「ウィズコロナをどう生きるか——感染症のスティグマを乗り越える」を行いました。これはCOVID-19がパンデミック状況へと拡大を見せるなかで、2020年4月に感染者や医療関係者に対する差別や偏見の防止を呼びかけたシトラスリボン運動が、開催校である松山大学と愛媛県から始まったことを機縁としたからです。歴史学の観点から廣川和花氏

に「隔離」と「療養」の間で——コロナの時代に考える近代日本のハンセン病史」を、次に HIV 陽性者への支援を行ってきた NPO 法人「りょうちゃんず」の早坂典生氏と、共同研究者である種田博之氏に「血友病 HIV 感染被害者の抱える諸問題——「病い」にまつわる生きづらさと苦心惨憺」を、最後に現在のコロナ禍における「生きづらさ」について、山田陽子氏に「自殺のスティグマを超えて——新型コロナ禍と社会的連帯」を発表していただき、オンデマンドという形で佐藤哲彦氏にコメントをいただきました。総括討論の様子は下の写真です。内容については次号の『保健医療社会学論集』をご期待ください。



一般演題／口演は 5 セッション 32 題（うち報告辞退 1 題）、ポスター発表 3 題、RTD は 8 セッションでした。どの報告もオンラインまたは対面で発表がなされ、オンラインと現地での質疑応答もスムーズで、ハイブリッド開催の強みを感じるようになりました。今大会で初めて採用したハイブリッド開催の経験を、次回以降の大会においてぜひ生かしていただきたいと思います。第 48 回大会に参加されたみなさんと、大会運営にご協力してくださったみなさんに重ねて感謝して、大会報告を終えます。

（第 48 回大会長・山田富秋 [松山大学]）

2. 第 49 回大会告知

2023 年 5 月 27 日（土）、28 日（日）の 2 日間にわたって、東京都立大学にて第 49 回大会を開催致します。開催方法は検討中ですが、荒川キャンパスを会場とする予定です。コロナ禍は、私たちの研究に多大な影響を及ぼしました。対面での調査等の再開と、それによって得られた成果を報告いただく大会といたく、保健医療社会学に関する研究によって現場を拓いていくことを表現するテーマ、そして企画を検討しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（第 49 回大会長・西村ユミ [東京都立大学]）

3. 総会報告

第48回日本保健医療社会学会大会（松山・オンラインのハイブリッド開催）の2日目2022年5月29日（日）に総会が行われました。総会議案書にもとづいて、第1号議案から第5号議案まで報告があり、承認されました。各議案は以下の通りです。

第1号議案：2021年度事業報告

第2号議案：2021年度決算・監査報告

第3号議案：2022年度事業計画

第4号議案：評議員制度規約

第5号議案：2022年度予算

以上

（戸ヶ里理事・総務担当）

4. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞（2013年度より「園田賞」）の2021年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下の通り決定しました。

受賞者：木矢幸孝

受賞作：「「軽度」とされる患者の困難性——球脊髄性筋萎縮症による身体機能の衰えの感受に着目して」（『保健医療社会学論集』32巻2号、pp.59-68、2022年）

2021年度園田賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』（第32巻）に掲載された若手研究者による論文（総説、原著、研究ノート）を対象にして選考されました。

（天田理事・園田賞選考委員会）

5. 理事会報告

2022年5月16日（月）に2022年度第1回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

日時：2022年5月16日（月） 10：00～12：00

会場：ZOOM会議

出席者：小澤会長、戸ヶ里理事、天田理事、本郷理事、前田理事、田代理事、石川理事、蘭監事、朝倉監事、事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：伊藤理事、心光理事

1. 第48回大会および総会についての確認（小澤会長・戸ヶ里理事）

小澤会長より第48回大会について滞りなく準備が進んでいるとの報告があった。総会議案書の確認を行い、原稿を確定した。総会の議長は現地参加する評議員に依頼することとし、後日、評議員会の出欠状況を確認の上、依頼することとした。

2. 大会時評議員会の議題について（小澤会長・戸ヶ里理事）

戸ヶ里理事より配布資料の通り、評議員制度規約案について説明があった。評議員メーリ

ングリストに配信をした際、会員種別での制限を外しても良いのではとの意見があり、評議員の資格を原則として通常会員としていたところを削除したことが伝えられた。

3. 育志賞について (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より、前理事会にて園田賞受賞者が育志賞の条件を満たしていれば推薦しても良いとの意見があったことが伝えられた。今回の園田賞受賞者は条件を満たしていないため、推薦はしないとの報告があった。

4. 編集委員会報告 (井口理事・田代理事)

井口理事より4月9日に編集委員会を開催したとの報告があった。8月頃に33巻1号を発刊する予定であり、投稿論文は5本、書評を7本掲載する予定であるとの説明があった。3月末締切の投稿論文は15本あり、査読を依頼中であることが伝えられた。次回は8月に編集委員会を開催するとの報告があった。編集事務局との連携についてはクラウドとメールを併用して試験運用していることが伝えられた。

5. 研究活動委員会報告 (天田理事)

天田理事より配布資料の通り、48回大会について対面参加からオンライン参加への変更があるとの報告があった。変更が多いと大会校の負担となるため、今後はルールを作成しても良いかもしれないことが伝えられた。

49回大会については現時点では対面開催を想定していることが伝えられた。また、西村第49回大会長には総会にて簡単に挨拶を頂くこととした。

6. 渉外・国際交流活動の報告 (石川理事)

石川理事より委員会内で国際学会の情報を収集していることが伝えられた。ニューズレター等、会員へ案内をする際、合わせて周知することとした。

7. 入退会者の承認 (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より配布資料の通り入会者の承認依頼があった。資料送付後に新たに申請があった4名を含めた合計20名の承認依頼があり、全員承認された。退会は36名、資格停止退会は13名との報告があった。

学生会員への変更22名、常勤職にない会員の減額申請21名、シニア会員への変更5名の承認依頼があり、全員承認された。

8. その他

小澤会長より、第50回大会、第51回大会の内諾状況について報告がなされた。

ニューズレターの発行回数について3回から4回へ戻すことが確認された。

天田理事より医学教育と社会教育のワーキンググループについて種田博之会員に座長をお願いしたことが伝えられた。座長選出の規定がなかったので、規定案を作成し、承認された。

以上
(戸ヶ里理事・総務担当)

6. 定例研究会（関東）報告

今年度の第1回定例研究会（関東）は、第49回大会（西村ユミ大会長）の大会プレ企画として、看護ケア部会との共催にて開催します。2022年12月27日（火）14時～17時、対面とオンラインのハイフレックス型での開催を予定しています。詳細が決まりましたら、皆様にご案内いたします。ぜひ参加をご予定ください。

（伊藤理事・研究活動担当）

7. 定例研究会（関西）報告

今年度第1回目の関西定例研究会は合評会として下記の内容で準備を進めていますので、万障お繰り合わせの上、会場での参加、もしくはリモートでの参加を心よりお待ちしております。詳細は後日、学会ホームページ等で追ってお知らせします。

■2022年度第1回関西定例研究会

日時：2022年9月24日（土）14:00～17:00

会場：キャンパスプラザ京都第4講義室+Zoomによるハイブリッド

報告者：松枝亜希子（立命館大学）

合評会：松枝亜希子，2022，『一九六〇年代のくすり——保健薬、アンプル剤・ドリンク剤・トランキライザー』

コメンテーター：（調整中）

問い合わせ先：本郷・伊藤（研究活動理事）

（本郷理事・研究活動担当）

8. 看護・ケア研究部会報告

1) 新役員体制について

今年度、看護・ケア研究部会は役員交代となり、部会員による役員選挙の投票結果に基づき、部会長は鷹田佳典（日本赤十字看護大学）、副部会長は松繁卓哉（国立保健医療科学院）、庶務は坂井志織（淑徳大学）、会計は本多康生（福岡大学）となること、第48回大会で開催された部会の総会で承認されました。

2) 新部会長より

今期、部会長を拝命しました鷹田です。私が本部会に初めて参加したのは10年ほど前のことになりますが、いつもアットホームな雰囲気の中で、多様な参加者が看護・ケアについてじっくりと議論し、交流を深められる場だと感じています。昨年はコロナの影響もあり、対面での開催はできませんでしたが、今年度は感染状況を見て、対面開催も実施できればと考えています。オンラインでも対面でも、看護・ケア研究部会のよさを大事にしながら活動を行っていきたいと考えていますので、是非みなさまのご参加をお待ちしています。

3) 2022年度研究例会の開催予定について

今年度は以下の3回の研究例会を開催します。うち1回は、対面での開催を予定しています。

第1回オンライン開催： 2022年7月16日 土曜日 14:00～17:00

第2回対面開催予定： 2022年9月17日 土曜日 14:00～17:00

第3回オンライン開催： 2023年3月11日 土曜日 14:00～17:00

(看護・ケア研究部会・鷹田佳典氏)

9. 渉外・国際交流活動

国際交流委員会では、引き続き、関連する分野の国際学会や海外研究者招聘の予定、学会員の参加が可能な講演・セミナー等の情報提供を行っております。皆様からも、ぜひ情報をお寄せください。

<ISAメルボルン大会の演題募集のお知らせ>

第20回世界社会学会 (ISA, World Congress of Sociology) は、2023年6月25～7月1日にオーストラリアのメルボルンで開催予定です。(ハイブリッド開催予定)

大会テーマは「Resurgent Authoritarianism: The Sociology of New Entanglements of Religions, Politics, and Economies」。現在、抄録受付中、9月30日締切です。

<https://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/melbourne-2023>

RC15 Sociology of Health には、23のセッションが集まっています。本学会員がオーガナイザーを務めるセッションもありますので、ぜひ下記より詳細をご確認ください。

<https://isaconf.confex.com/isaconf/wc2023/webprogrampreliminary/Symposium738.html>

- Language on Health Under COVID-19 Pandemic (追手門学院大学 藤吉圭二、星槎大学 細田満和子)
- Patients Participation and Transformation of Society (星槎大学 細田満和子)
- Reproduction in the Current World: Focusing on Prenatal Testing and Abortion (静岡大学 白井千晶)

(石川理事・渉外・国際担当)

10. 会員の動向

2021年8月1日～2022年5月10日までの申請者数は下記の通りです。

入会者数：通常会員 26名、共同発表会員(通常) 7名、学生会員 3名、共同発表会員(学生) 1名

退会者数：通常会員 28名、共同発表会員(通常) 7名、シニア会員 1名

資格喪失：通常会員 13名

学生会員への変更数：22名

シニア会員への変更数：5名

常勤職にない会員の会費減額申請数：21名

(学会事務局)

11. 編集後記

ニューズレターNo.121では、今年5月に開催された第48回大会や総会、理事会、研究活動の報告を中心に掲載いたしました。今年度は、第48回大会を皮切りにハイブリッド形式・対面での企画が予定されています。コロナ禍でニューズレター発行が減っていましたが、年4回発行に戻し、情報をお届けしてまいります。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

(心光理事・広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当 (心光世津子)
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター	
jshms-office@bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375